

【ポスター発表】

**相談援助の実習中における学生の主観的困りごとへのスーパービジョン
ー実習生へのアンケート調査からー**

○神戸医療福祉大学 梅谷 進康 (5091)

畠中 耕 (神戸医療福祉大学・4410)、黒木 利作 (神戸医療福祉大学・5582)

キーワード：相談援助実習、主観的困りごと、スーパービジョン

1. 研究目的

相談援助実習において、実習生は困りごとを抱える場合がある。このような実習中の精神的な負担は、実習を継続しがたい状況に陥らせることもあるため、適切に対処しなければならない。

実習生が抱える実習中の主観的困りごとについては、実習先の指導者からサポートが行われると思われる。ただし、実習生が在籍する学校の教員も巡回・帰校指導などで、実習生が専門職として成長することにつながるスーパービジョンを行う必要があるといえる。

以上から、本研究では相談援助の実習中に実習生が抱く主観的困りごとを分析・考察することにより、今後この実習を行う実習生へ教員がスーパービジョンを行う際の示唆を得ることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、近畿地方の郡部にあるA大学Bキャンパスに通う学生のうち、平成24年度に相談援助の実習を行った学生全員(100人)を対象にアンケート調査を行った。調査期間は平成24年10月1日～12月6日で、実習を終了した者から随時、調査を行った。

3. 倫理的配慮

本研究では神戸医療福祉大学の倫理審査委員会の承認を得るとともに、調査票とあわせて「調査協力は任意であること」「データは学術的研究・教育資料以外に使用しないこと」「調査結果を公表する際には個人が特定できないようにすること」が記述された説明文書を調査対象者に配布した。そして、実際、これらのことを実行した。

4. 研究結果

回答総数は96人(有効回答率96%)で、実習先種別の回答数は高齢者福祉が36人、障害者福祉が19人、児童福祉が22人、医療福祉が1人、地域福祉が18人であった。

次図は、困りごとの各項目とその困りごとの有無の割合を帯グラフにしたものである。そして次表は主観的困りごとにかかる自由記述について、定性的コーディングを行った分析結果の抜粋である。

(n=96)

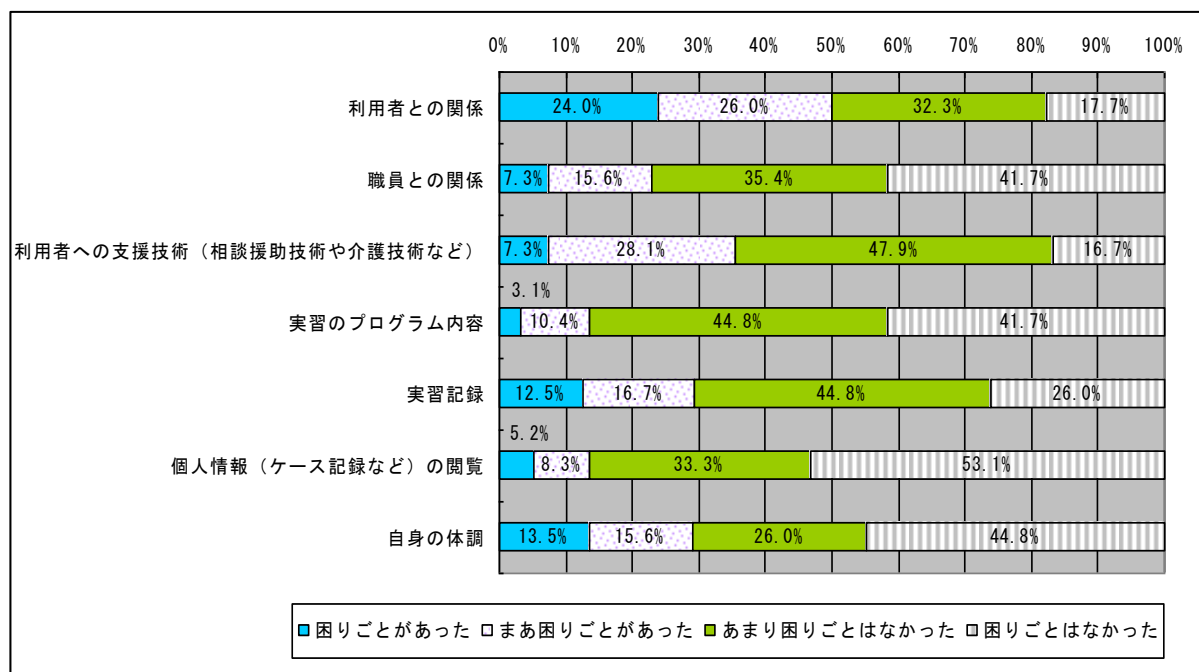


図 困りごとの各項目と困りごとの有無の割合

表 主観的困りごとの概念的カテゴリー一覧（抜粋）

困りごとの項目	主観的困りごとの概念的カテゴリー
利用者との関係	コミュニケーション、良好な関係の構築、拒否的態度、贈り物への対応
職員との関係	質問がしづらい、情報が得られない、日誌が返ってこない
利用者への支援技術	利用者への質問方法、個別援助計画の作成、利用者にあった支援方法、自立支援の方法
実習のプログラム内容	実習期間・内容が当初の予定と違う、予定がわからない、夜勤の翌日に日勤が入る
実習記録	日誌の書き方がわからない、上手に書けない、書くことがなくなる
個人情報	ケース記録が見られない、職員や利用者から情報を得づらい
自身の体調	心身の疲労・不良、睡眠不足
その他	お礼状の書き方がわからない

5. 考察

「困りごとがあった」「まあ困りごとがあった」を合わせた回答割合として、「利用者との関係」「利用者への支援技術」が上位2項目であった。このことから、A大学の教員は実習生が利用者とのかかわりに関して主観的困りごとを抱えているかもしれないという意識をよりもって、巡回・帰校指導などの実習中のスーパービジョンを行うことに留意すべきという示唆が得られた。あわせて、同教員は上記の概念的カテゴリーにも留意して、スーパービジョンの支持的・教育的・管理的機能を実習中にも発揮すべきという示唆が得られた。